

事務局よりのお知らせ

日本形成外科手術手技学会
理事長 鈴木 茂彦

- 目次 -

- * 事務局よりのお知らせ
 - * 第16回形成外科手術手技研究会 印象記
 - * 受賞者抄録
主題演題最優秀賞・会長特別賞・hello idea 賞
 - * 第17回日本形成外科手術手技学会お知らせ
- <別紙>
第16回形成外科手術手技研究会プログラム

東日本大震災で被災された皆様に心よりお見舞いを申し上げます。かつてない大災害に対し救難活動や、医療のために尽力しておられる皆さまには、心から敬意を表したいと思っております。また、被災地の一日も早い復興をお祈り致します。

第16回日本形成外科手術手技研究会が、平成23年2月5日(土)大阪医科大学形成外科の上田晃一会長の下、大阪府高槻市で開催され、大盛会で終了致しました。「アイデア」に焦点を当てたシンポジウム、主題演題に一般演題を加え100題近い演題発表が行われ活発な質疑応答が行われました。さらに、JAXA 川口淳一郎教授の「はやぶさ」に関する特別講演は誠に勇気付けられる内容で皆様の心に残ったと思います。上田晃一会長ならびに教室関係者、そしてご発表、ご参加いただきました皆様方に深く感謝申し上げます。

なお、演題数が増加し各賞受賞者数も増えましたので、本『News Letter』は <第16回形成外科手術手技研究会プログラム> を別紙とさせていただきます。

日本形成外科手術手技研究会はここ数年、参加者数、演題数ともに増加傾向にあり、前回の理事会における議論を経て、今回の理事会で、「日本形成外科手術手技学会」に名称変更することが決まりました。名称は変わりましたが、本学会は形成外科の新しい手術手技の発表の場ならびに伝統的手術手技の伝承の場として、気楽に様々な情報交換ができる肩の凝らない「研究会」的雰囲気を保っていただきたいと思っております。会員の皆様方には引き続き本会の運営、発展にご協力賜りますようお願い申し上げます。

その他、平成22年度の理事会(平成23年2月5日開催)において、決定された主な事項をお知らせいたします。

1. 次期研究会は獨協医科大学教授 朝戸裕貴会長の下、平成24年2月18日(土)KFCホール(東京・両国)にて開催予定。
2. 次々期会長に東京女子医科大学 櫻井裕之理事が推薦され選任された。
3. 名誉会員に鳥居修平先生、鳥飼勝行先生が推挙され承認された。
4. 新理事として推薦された候補者に理事就任依頼状をお送りすることになった。承諾された以下10名の先生が新たに理事として就任された。

内沼 栄樹 先生、貴志 和生 先生、木股 敬裕 先生、多久嶋 亮彦 先生、仲沢 弘明 先生
松尾 清 先生、水野 博司 先生、宮坂 宗男 先生、吉本 信也 先生、四ツ柳 高敏 先生

5. 理事がかなり増加することになるので、今後の本会運営方法については細川副理事長に検討いただくことになった。演題抄録の掲載方法についても合わせて検討していただく。
6. 本学会の日本形成外科学会生涯教育点数が引き上げられ、出席6点、演題発表筆頭者3点、共同演者2人まで1点となった(第16回研究会より適用)。

第16回形成外科手術手技研究会 印象記

会長 上田 晃一（大阪医科大学 形成外科）

この度、第16回日本形成外科手術手技研究会を無事終えることができ、ご協力をいただきました諸先生に厚くお礼を申し上げます。

今回の研究会では、学会のテーマを「求む！君のアイデアを」とし、研究会の運営も出来るだけ新しいアイデアを取り入れました。一般的に学会のポスターは建物の写真や抽象的な模様など印象に残らないものが多いですが、医局員からアイデアを募り、出来るだけインパクトのあるものを作成しました。また会場が大学構内であったため、なるべく印象に残るように講演の初めや表彰式に音楽を挿入したり、企業から学会の趣旨を伝えて特別に「hello idea」賞を協賛していただきました。

私の印象のなかで最も感動したのは川口淳一郎教授の「はやぶさ」についての特別講演でした。わたくし自身講演が本当に実現するとは信じられなかったし、その内容が実際にプロジェクトを率いた人の言葉で説得力があり、面白く、ユーモアあり、涙あり、感動ありで時間の過ぎることを忘れてしまいました。最後に述べられた感動的な言葉「高い塔をたててみなければ新たな水平線は見えてこない」は、いまでも忘れることはできません。

シンポジウムでは「アイデアはどのようにして生まれるのか」という難しいテーマに挑みました。新しいオリジナルの術式の内側にある背景やキッカケ、ヒントに焦点をあて、アイデアが生まれる過程について討論していただきました。おかげさまで11人のシンポジストの方に御応募を頂き、二つのパートに分けてシンポジウムを行いました。新しいシンポジウムの試みとしてはとてもよかったのではないのでしょうか。

主題演題のテーマを術前の工夫(アイデア)、術中の工夫(アイデア)、術後の工夫(アイデア)とし、計32の演題が集まりました。

一般演題は44の演題の御応募をいただきました。会場を2会場とし、第1会場はシンポジウム、主題演題、特別講演、ランチョンセミナーで一杯のスケジュールとなり、8時20分の開会で、閉会は17時25分とさせていただきます。第2会場をすべての一般演題とし、ランチョンセミナーを入れて、第1会場の特別講演の内容をこちらに映し出しました。第1会場、第2会場ともに満杯のスケジュールで今後演題の応募が増えていくと2会場では収まらなくなる可能性があります。

最後に多数の演題の御応募をいただき、誠にありがとうございました。ここにお礼を申し上げます。

受賞者抄録

主題演題最優秀賞

主題2「手術中の工夫(アイデア)」

鼻涙管閉塞症に対する新しい術式:鼻涙管-鼻腔粘膜端側吻合術(Nasolacrimal Duct-Rhinostomy)

香川大学 医学部 形成外科

○田中 嘉雄、佐野 法久、木暮 鉄邦、小田 敦司、長尾 聖子、浜本 祐介

【目的】鼻涙管閉塞の治療として、涙嚢鼻腔吻合術(DCR)は依然としてgold standardである。われわれは、鼻涙管の開存部を利用して鼻腔側粘膜に端側吻合する新しい術式(Nasolacrimal duct-rhinostomy: NLDR)を試み良好な結果を得たので報告する。

【症例および方法】2007年9月から2010年8月までに慢性涙のう炎4例5側にNLDRを行った。男性1、女性3(平均年齢79歳)である。NLDRは鼻涙管断端を外側へ折り返すため、①鼻涙管の粘膜断端が手前にきて、鼻腔側粘膜との吻合が容易である、②折り返し部位が新しい開口部となり、かつ丈夫な鼻腔粘膜と端側吻合するため狭窄・閉塞を起こしにくい、③従来のDCRと異なり、water-tightな閉鎖腔であるため、術直後から流涙は改善され、術後のチューブ留置や通水などの処置も要しない、などの利点を有する術式である。症例1:79歳女性。数年来の鼻涙管閉塞に起因する慢性涙嚢炎のため、白内障の手術が行えないとのことで全麻酔下にNLDRを行った。症例2:69歳男性。数年来、左流涙があり眼科で洗浄、プジーを繰り返していたが改善せず、当科を受診した。全麻酔下にNLDRを行った。症例3:87歳女性。両側慢性涙のう炎に対して、NLDRを両側に行った。症例4:82歳女性。左慢性涙のう炎に対してNLDRを行った。

【結果】平均観察期間は21ヶ月、全例で開存している。いずれも術直後から流涙の訴えは消失した。術後は抗生剤含有点眼液を3ヶ月続けた。症例1では涙嚢炎も消退して白内障の手術を受けることができた。

【考察】従来のDCRは完全な閉鎖腔でなく、周囲からの肉芽形成に依存する方法である。このため、肉芽が内腔に増生した場合には、再狭窄から閉塞に至ることになる。NLDRの適応には、断端を折り返すに必要な鼻涙管（狭窄部を含んで約4mm以上）が残っている症例が適応と考える。

会長特別賞

顔面表情筋の再建材料としての広頸筋の有用性の検討

熊本大学 皮膚科・形成再建¹⁾ 熊本医療センター皮膚科²⁾
○石原 剛¹⁾、増口 信一¹⁾、原田 美穂¹⁾、伊方 敏勝²⁾、尹 浩信¹⁾

広頸筋は、顔面表情筋に似た広く薄い筋である。広頸筋は顔面神経支配であり、顔面の複雑な動きを再現できる可能性を有している。これまでの研究で、皮膚穿通枝の形態によっては広頸筋を含まなくても上頸部皮膚は生存する可能性がわかってきた(Plast Reconstr Surg 115:1018-24, 2005)。われわれは上頸部リンパ節郭清術を行う症例で穿通枝を同定し、穿通枝につながる皮下血管網の術中観察を行い、上頸部皮膚の血流は広頸筋に支配されていないことを報告した(Scand J Plast Reconstr Surg Hand Surg. 42)。

【目的】顔面表情筋の再建材料として、広頸筋が利用できる可能性について検討する。

【方法】上頸部郭清術を行う症例や、頸部のセンチネルリンパ節生検を行う症例で、顔面神経の頸枝が広頸筋に分枝する解剖学的位置を同定する。さらに、神経分布を解明するとともに筋収縮力を検討する。

【結果】顔面神経の頸枝は、広頸筋に複数本の分枝を持ち、神経刺激装置で明らかな筋収縮を認めた。

【考察】皮膚血流分布を考慮して頸部皮膚と広頸筋を分離すれば、広頸筋上の皮膚壊死はおこらない。現時点では、広頸筋を顔面表情筋の再建材料として用いた報告はないが、広頸筋を神経枝ごとに分割して表情筋の再建に利用できる可能性がある。

hello idea 賞

骨延長器を用いた高度短鼻に対する新しい治療法とその後戻りの検討

久留米大学医学部 形成外科・顎顔面外科
○力丸 英明、清川 兼輔

【目的】高度短鼻では、硬性組織だけでなく皮膚と鼻腔側粘膜両方の軟部組織の不足が治療を非常に困難にしている。それに対し我々は、骨延長の手技を用いて鼻の骨の延長と同時に皮膚と鼻腔側粘膜両方の延長を行う新しい治療法を開発した。本法は、最小限の手術侵襲と瘢痕で10mm以上の鼻の延長を安全かつ確実に行うことが可能な有用な方法であるが、延長終了後と比較して後戻りを認める。今回の目的は、この後戻りについて検討することにある。

【方法】まず、第一期手術として腸骨移植による隆鼻術を行う。腸骨を鼻根部から鼻尖にかけて移植する。6ヵ月以上経過した後、第二期手術として移植した腸骨の骨延長を行い短鼻の改善を図る。鼻梁に縦方向の切開を加え、移植した腸骨に骨延長器装着のためのピンニングを行う。次にピンニングの中央部を横方向に骨切りし、創部を縫合し骨延長器を装着する。骨延長は術後2週間経過した時点から1日0.6mmずつ行い、保定は3ヵ月間行う。

【症例および結果】症例は20歳女性（頭蓋骨縫合早期癒合症術後）と26歳男性（顔面多発骨折術後）の2例。前者は12.6mmの骨延長を行い3年6ヶ月、後者は13.8mmの骨延長を行い2年6ヵ月経過した。両者ともdistraction gapに骨新生を認め短鼻は改善したが、骨延長直後に比べ約3~4mmの後戻りを認め、整容的にやや不満が残った。

【考察】後戻りの原因は鼻軟部組織の高度の瘢痕と鼻尖部腸骨の吸収と考えられ、延長量に対し約20~25%後戻りをする。しかし、鼻を軟部組織の移植なく最小限の瘢痕で1cm以上安全に延長する方法は本法より他にない。本法は、後戻りを見越して25%程度過矯正に延長することで、整容的に十分に満足の結果が得られると考えられた。

第 17 回日本形成外科手術手技学会のお知らせ

第 17 回日本形成外科手術手技学会
会長 朝戸 裕貴

まず先般の東日本大震災におきまして被災された皆様に対し、心よりお見舞い申し上げますとともに、早期の復興をお祈りいたします。

さて、この度第 17 回日本形成外科手術手技学会を主催させていただくこととなり、役員ならびに会員の諸先生に厚く御礼申し上げます。今回は研究会から学会へと名称が変更されて初の学術集会であり、教室員一同身の引き締まる思いで準備にかかっております。

会場となる KFC ホールは、国技館や旧安田庭園など日本の伝統文化を残す東京・両国に位置し、開業間近の東京スカイツリーも程近く望めます。都営大江戸線両国駅直結の便利な立地にホテルも併設された多目的ホールであります。

詳細については未定ですが、形成外科の根幹ともいえる手術手技に特化した学会ですので、いろいろな新しいアイデアや工夫などをご発表いただき、十分な討論がつくせるよう一般演題を重視したプログラムを考えております。

会員をはじめ形成外科医の先生方におかれましては、多数のご参加をいただけますようお願い申し上げます。

日 程：平成 24 年 2 月 18 日(土)

場 所：KFC ホール(東京・両国)

〒130-0015 東京都墨田区横網 1-6-1 国際 FC 3F
TEL:03-5610-5801

<事務局> 独協医科大学 形成外科

TEL:0282-87-2485, FAX:0282-86-1806

第16回形成外科手術手技研究会プログラム

平成23年2月5日(於:大阪医科大学 臨床第1・2講堂)

<第1会場>

【主題演題1】術前の工夫(アイデア)

座長:成島 三長(東京大学 形成外科)

- T1-1 植皮術後に埋没した多数のステンチーブナーを除去する際の工夫
千葉大学医学部附属病院 形成美容外科 力久 直昭
- T1-2 二次修正術の際、切除予定の癬痕を創縁保護に利用する工夫
佐久市立国保浅間総合病院 形成外科 宮下 宏紀
- T1-3 シリコンゲル付ポリウレタンフォームを用いた陰圧閉鎖療法
高槻赤十字病院 形成外科 久徳 美樹
- T1-4 卍形刺青切除時の一工夫
いわき市立総合磐城共立病院 形成外科 高橋 典子
- T1-5 客観的アレンテスト法
福島県立医科大学 形成外科 梶川 明義
- T1-6 Midline straight line closure を目指した脊髄腫瘍再建術
国立成育医療研究センター 形成外科 金子 剛
- T1-7 皮膚潰瘍にchance あり! —non-dominant perforator
の代償性拡張を狙った術前のmapping と皮弁の計画
埼玉医科大学総合医療センター 形成外科・美容外科 山崎 俊

【主題演題2】手術中の工夫(アイデア) 1

座長:小川 令(日本医科大学 形成外科)

- T2-1 リンパ管—静脈吻合時の私達の工夫
久留米大学 形成外科・顎顔面外科 井上 要二郎
- T2-2 穿通枝皮弁挙上に際して内視鏡を用いてデザインする工夫
静岡県立静岡がんセンター 桂木 容子
- T2-3 広背筋穿通枝を利用した遊離広背筋皮弁分割の1例
(TAP flap in free LD flap)
成田赤十字病院 形成外科 黒木 知明
- T2-4 Nipple sparing mastectomy の組織充填固定の術中工夫
岩手医科大学 形成外科 細谷 優子
- T2-5 DIEP flap を安全に挙上させる小工夫
癌研有明病院 形成外科 矢島 和宜
- T2-6 眼窩下動脈を栄養動脈とした遊離耳介皮弁移植による鼻翼再建
東京大学医学部附属病院 形成外科 成島 三長

【主題演題2】手術中の工夫(アイデア) 2

座長:井上 要二郎(久留米大学 形成外科・顎顔面外科)

- T2-7 眼瞼下垂腱膜固定術におけるゼムクリップで作製した牽引補助具の有用性
金沢医科大学 形成外科 山元 康徳
- T2-8 Crab claw flap による外眼角部欠損の再建
大阪大学 形成外科 松田 健
- T2-9 口唇裂手術における、26 ゲージ針を用いた皮膚トリミングの小工夫
東京都立小児総合医療センター 形成外科 玉田 一敬
- T2-10 ラッププロテクターを用いた顎変形症手術
—口腔内操作時の口唇損傷を防ぐために—
自治医科大学 形成外科 加持 秀明
- T2-11 サージカルワイヤーを用いたLe FortI型骨切り移動術に
おける簡便な3 次元的固定位置決め・固定法
東京警察病院 形成外科・美容外科 渡辺 頼勝
- T2-12 顔面骨折手術におけるスクリュー牽引補助
東邦大学医療センター大橋病院 形成外科 上野 佐知
- T2-13 当科における腸骨採骨部へのリン酸カルシウム骨ペースト
(CPC) 適用法の変遷
近森病院 形成外科 赤松 順
- T2-14 鼻涙管閉塞症に対する新しい術式:鼻涙管—鼻腔粘膜端側
吻合術(Nasolacrimal Duct-Rhinostomy)
香川大学医学部 形成外科 田中 嘉雄

【シンポジウム1】アイデアはどのようにして生まれるのか1

司会:光嶋 勲(東京大学形成外科)

三鍋 俊春(埼玉医科大学総合医療センター 形成外科・美容外科)

- S-1-1 顔面広範欠損に対する複数の組織移植例から学んだもの
東京大学 形成外科 光嶋 勲

- S-1-2 大胸筋皮弁の基礎的研究から生まれた新しい皮弁の挙上法
—大胸筋弁を茎とした前胸部, DP 穿通枝皮弁—
久留米大学 形成外科・顎顔面外科 古賀 憲幸
- S-1-3 The chopstick rest technique' の発想の経緯とその目的
癌研有明病院 形成外科 矢島 和宜
- S-1-4 複数の中足骨欠損に対して肋骨付き前鋸筋皮弁を用いた再建
宝塚市立病院 形成外科 黒川 正人
- S-1-5 血管構造のanatomical concept とdissection に基づく皮
弁のアイデア: Clinical anatomy の意義
埼玉医科大学総合医療センター 形成外科・美容外科 三鍋 俊春

【特別講演】「はやぶさ」

宇宙航空研究開発機構(JAXA) 川口 淳一郎 教授

司会:上田晃一(大阪医科大学形成外科)

【主題演題2】手術中の工夫(アイデア) 3

座長:元村 尚嗣(大阪市立大学大学院医学研究科 形成外科学)

- T2-15 植皮術におけるワイヤーフレーム外固定法の工夫—特に
手指への植皮での応用について—
日本医科大学 形成外科 小川 令
- T2-16 指への遊離皮弁における静脈吻合の工夫
南川整形外科病院 手の外科・外傷センター 宮本 洋
- T2-17 骨内血管奇形に対する骨髄穿刺針を用いた透視下硬化療法
KKR札幌医療センター斗南病院 血管腫・血管奇形センター
藤田 宗純
- T2-18 Modified Facial dismasking flap approach により、開頭
せずに切除した深在性眼窩海綿状血管腫の1例
成田赤十字病院 形成外科 黒木 知明
- T2-19 足のQOL を考慮したMTP 関節部での足趾切断術の工夫
時計台記念病院 形成外科・創傷治療センター 小浦場 祥夫
- T2-20 Moving window 法を用いた臍突出・腹直筋離開合併症例
に対する腹壁形成術の治療経験
旭川厚生病院 形成外科 皆川 知広

【主題演題2-3】

手術中の工夫(アイデア) 4/手術後の工夫(アイデア)

座長:坂井 靖夫(大阪大学 形成外科)

- T2-21 当科におけるbolster 縫合の一工夫
豊見城中央病院 形成外科・顎顔面外科・美容外科 栗澤 剛
- T2-22 発展途上国における手術室内の照明について
名古屋形成クリニック 上敏 明
- T3-1 分層植皮採皮部へのシリコンゲルメッシュシート(商品名
エスアイエイド)の使用経験
獨協医科大学 形成外科 荻野 和仁
- T3-2 遊離前腕皮弁採取部醜形を予防するための後療法について
大阪市立大学大学院医学研究科 形成外科学 元村 尚嗣
- T3-3 癬痕拘縮の防止に挑む~接着スプリントを用いて~
富士森形成外科医院 富士森 英之

【シンポジウム2】アイデアはどのようにして生まれるのか2

司会:富士森 良輔(富士森形成外科医院)

松尾 清(信州大学医学部 形成再建外科学講座)

- S-2-1 慣れておきたいZ とYV の扱い方
富士森形成外科医院 富士森 良輔
- S-2-2 美しい臍をつくるための私のIdeas and Innovations
福島県立医科大学 形成外科 梶川 明義
- S-2-3 エアスプレー一体型電気メスの開発とそのアイデアの発
想背景
昭和大学医学部 形成外科 三川 信之
- S-2-4 アイデアは主として手術中に生まれる
市立岸和田市民病院 形成再建外科 久徳 茂雄
- S-2-5 「アイデアは術中の研ぎ澄まされた緊張感の中で生まれる」
— 拡大経結膜切開法の開発—
沖縄県立中部病院 形成外科 石田 有宏
- S-2-6 私のアイデアの捻り出し方
信州大学医学部 形成再建外科学講座 松尾 清

<第2会場>

【一般演題1】皮弁①

座長: 柏 克彦(岩手医科大学 形成外科)

- 01 TRAM flap 採取部に対する自家真皮パッチによる腹壁補強法
神鋼病院 形成外科 奥村 興
- 02 BD領域の乳房部分切除(乳房温存術)に対し、乳房下溝線尾側の皮弁を用いた再建法の経験
静岡がんセンター 再建・形成外科 茅野 修史
- 03 両側有茎腹直筋皮弁による乳房再建における工夫
がん・感染症センター 都立駒込病院 谷口 浩一郎
- 04 Pair Breaching Flap による乳頭再建
慶應義塾大学 形成外科 清水 瑠加
- 05 性同一性障害の再建陰茎壊死例に対する胸背動脈穿通枝皮弁を用いた尿道・陰茎形成
東京大学 形成外科 山本 匠
- 06 遊離脂肪片を用いた微小血管吻合部に対する一工夫
名古屋大学 形成外科 神戸 未来
- 07 難治性唾液瘻に対し大腿筋膜移植と大胸筋皮弁を組み合わせた新しい閉鎖法
徳島大学 形成外科・美容外科 安倍 吉郎
- 08 サージカルワイヤーを用いた口腔中咽頭領域再建における皮島の正確なデザイン法
久留米大学 形成外科・顎顔面外科 渡部 功一

【一般演題2】皮弁②

座長: 鈴木 康俊(獨協医科大学 形成外科)

- 09 腓腹筋を複合した遠位茎腓腹皮弁の挙上手技と有用性
岩手医科大学 形成外科 柏 克彦
- 10 遊離前外側大腿皮弁血管茎を利用した、足部血行再建の一例～Vascular flap の試み～
成田赤十字病院 形成外科 黒木 知明
- 11 micro dissection により小骨片化した、血管柄付き遊離腸骨移植の経験
成田赤十字病院 形成外科 黒木 知明
- 12 静脈吻合を追加した逆行性橈側前腕皮弁により再建を行った示指血管奇形の一例
獨協医科大学 形成外科 渡邊 武夫
- 13 超微小血管に対する全く新しい糸の刺入方法: 11-0 ループ針を用いたthreader techniqueの開発
東京大学医学部附属病院 形成外科 戸所 健
- 14 新生児に対しマイクロサージャリーによる創閉鎖を行った1症例
福岡大学 形成外科 木村 広美
- 15 リンパ管細静脈吻合術における赤外線撮影機能付き顕微鏡の使用経験
岩手医科大学 形成外科 新井 雪彦
- 16 陰嚢リンパ浮腫に対して精索内リンパ管と精索静脈の分枝でリンパ管静脈吻合を行った4例
岡山大学 形成再建外科 大槻 祐喜

【一般演題3】腫瘍・材料

座長: 古川 洋志(北海道大学 形成外科)

- 17 広範囲の露出腸管に対して独自の陰圧吸引療法を行うことにより創閉鎖を可能にした一例
名古屋大学 形成外科 小野 昌史
- 18 重症虚血肢に対するバイパス術施行時のフォガティーカーテールの使用経験
兵庫医科大学 形成外科 藤原 敏宏
- 19 Multi-Detector-row CT (MDCT) による3次元血管造影を利用したAVMの治療
愛媛大学医学部附属病院 皮膚科(形成外科診療班) 中岡 啓喜
- 20 返し付き合成吸収糸の真皮縫合への使用経験
日本医科大学附属病院 形成外科・美容外科 石井 暢明

- 21 側頭骨全摘術後再建に利用する耳介位置決定装置作成時の小工夫
東京医科歯科大学 形成外科 田中 顕太郎

- 22 インプラントを用いた乳房再建におけるドレーンの工夫
癌研有明病院 形成外科 松原 有木子
- 23 造腔術時に生じた小皮膚欠損への植皮術に対する尿道バルーンカテーテルの利用
昭和大学医学部 形成外科 三川 信之
- 24 豚皮を用いた皮膚縫合スキルトレーニング
昭和大学医学部 形成外科 三川 信之
- 25 切断指再接着後の術後管理の工夫
市立岸和田市民病院 形成再建外科 宇根 千尋
- 26 巨大ガングリオンに対する大腿筋膜パッチ法
社会医療法人北斗病院 形成外科 島田 卓治

【一般演題4】顎顔面

座長: 鳥山 和宏(名古屋大学 形成外科)

- 27 タップ法による頬骨骨折の治療経験
小牧市民病院 形成外科 堀 直博
- 28 眼窩底骨折治療における上顎洞バルーンの利用状況—様々なバリエーションに対する
東京女子医科大学 形成外科 長谷川 雅弘
- 29 鼻尖部・鼻翼部の再建におけるnasolabial flap の作図の工夫
京都大学 形成外科 益岡 弘
- 30 骨延長器を用いた高度短鼻に対する新しい治療法とその後戻りの検討
久留米大学医学部 形成外科・顎顔面外科 力丸 英明
- 31 眼瞼部乳児血管腫に対する視性刺激遮断弱視予防のための糸による牽引術
杏林大学 医学部 形成外科 尾崎 峰
- 32 下眼瞼形成術における眼輪筋オーバーラップ法によるtear trough deformity の改善
順天堂大学浦安病院 形成外科・美容外科 小室 裕造
- 33 当院におけるスタール耳治療の経験
獨協医科大学 形成外科 外岡 真紀
- 34 毛向Mapping(仮称)による頭部腫瘍切除
八王子医療センター 形成外科 岡田 宇広
- 35 顔面表情筋の再建材料としての広顔筋の有用性の検討
熊本大学 皮膚科・形成再建科 石原 剛

【一般演題5】工夫

座長: 河合 勝也(京都大学 形成外科)

- 36 整容的にすぐれた良性腫瘍摘出へのscar less アプローチ
東京大学医学部附属病院 形成外科 今村 三希子
- 37 人工的な皮膚切開位置に関する考察
～女性化乳房手術のアプローチ法を例にとり～
東京医科歯科大学 形成外科 植村 法子
- 38 重症下肢虚血の足趾断端形成における皮膚切開の工夫
神戸大学大学院医学研究科 形成外科学 櫻井 沙由理
- 39 巻き爪・陥入爪に対する爪矯正治療の一工夫
関西医科大学附属滝井病院 南方 竜也
- 40 自傷行為後の前腕癒痕に対して頭皮をドナーとしたdermal over grafting を施行した2例
金沢医科大学 形成外科 森田 礼時
- 41 皮弁を使用しない手背部伸筋腱欠損に対する新しい再建法～VASK graft 法(仮称)について～
八尾市立病院 形成外科 三宅 ヨシカズ
- 42 クーゲルパッチ使用後の腹壁癒痕ヘルニアにおけるComponents Separation 法の有用性
筑波大学臨床医学系 形成外科 諫山 哲也
- 43 頭頸部再建時の腹直筋皮弁の採取と閉鎖の工夫
愛知県がんセンター中央病院 形成外科 兵藤 伊久夫
- 44 当科における正中部腹壁癒痕ヘルニアに対する手術法
足利赤十字病院 形成外科 高田 悟朗